

都留文科大学

# 同窓会報

第26号会報

発行 都留文科大学同窓会事務局  
 責任者 小林孝次  
 山梨県都留市田原3-8-1  
 ☎0554-43-4341



都留文科大学  
 同窓会

## 「挨拶」



都留文科大学同窓会会長

永田 清一

大学に足を運ぶと、ふうっと湧くように学生時代が脳裏に浮かび上がる。桂川に対して、三方を山に囲まれたキャンパスは、懐かしくもありとても安らぐ。又、周囲の木々も四季折々に姿を変え、見るものを楽しませてくれる。

当時とは比べられない位キャンパスが整備され、行き交う学生も私達よりあか抜けて見える。

会長という大役を仰せつかり、その責任の重さを実感しながら同窓会運営に当たって行きたい。

各県の支部長を始め会員の皆様には、今後とも、変わらぬご協力をお願いしたいと考えている。

昨年、岡山で開かれた校長会の研究会に出席した。その時、国際医療ボランティア「AMDA」の創設者である菅波さんの話を聞く機会があった。

支援しようとする国や地方の人々にもプライドがある。押しつけの援助は論外だが、その国や地方の人々とのように関わるかをしっかりと持っていなければ、受け入れてもらえない。その関わりを表す言葉が「おたがいさま」「ありがとう」なのだそうだ。「おたがいさま」の言葉は私にとって大変懐かしく、そして、幼少年期に近隣の人々とのような関係が築かれていたか、その時代の思い出と一緒に思い起こした。「困った時は、おたがいさまです

よ」よく私の母も父も使っていた言葉だ。まさに相互扶助の概念がしっかりと染みこんだ言葉だとあらためて感じた。「ありがとう」は「有り難い」の意味を強調していた。他人に「ありがとう」と言うのは、「あなたは私にとってかけがえのない必要な人なんですよ」と訴えていると言う。

AMDAは、後に、国内の医療ボランティアとして初の国連NGOに認定される。

又、次の言葉も印象深い。

皇后美智子様が、娘である紀宮様のご結婚の際、紀宮様に「大丈夫よ」と声をかけられたそうである。大丈夫という言葉が印象に残り、私は何度もつぶやいた。美智子様は、親として母として人生の先輩として「大丈夫」という言葉を選び、贈った。

私はこの言葉に込められた深い愛と励ましの力強さを感じた。自らの気持ちを正確に正しく伝えようとすればするほど「ことば」を選ぶことが大切であり、こういった使い方を磨かなければとも思った。

さて、全国各地から学生の集まる本学は、大学規模にもよるし、立地環境がそうさせるのかもしれないが、幸い教授陣とも近いし、学生同士の関わりも濃いと感ずる。

私達同窓会も「おたがいさま」「ありがとう」「大丈夫」の言葉のように学生との良き関係を保ちつつ、大学全体から最も信頼される同窓会づくりに努めていきたい。

それが、本学で得た多くの経験や学びに対する恩返しだと思っている。

同窓会に期待されている役割をしっかりと果たしていくためにも、全国の会員の力を結集して、団塊世代の大量退職に伴う就職戦線へ力強く参戦をしていきたい。

学生や会員の皆様のご協力を再度お願いして会長の挨拶とする。

## 「支部大会に参加して想う」



都留文科大学同窓会事務局

次長

浜欠 亮吉

同窓会事務局次長という執行部の役員を拝命してから早いもので15年が経ちました。「任期は2年で留任もあるが手伝ってくれないか。教員が多いのは当然だけど、民間のOBが増えるほうがいろいろの意見が集約されて、活動に活気が入るだろうから」との誘いに応じたことを今でも覚えています。

現職の校長・教頭先生や現場の先生、NTT社員に市役所の職員、金融機関の管理職、そして建築会社の社員の私と、諸々の職種が混じった役員構成でした。

15年間もお手伝いしていると、いろいろの思い出があります。興石東顧問が元衆議院議員で同窓会会長の時、国会議事堂へ研修に行き、各委員会室を見学。委員長席に触ってみたり記念写真を撮ったりしました。

また、支部の設立総会に同窓会会長の代理で新潟と福井へ行ったことも、記憶に新しい思い出です。

大学からは学長も出席して頂きました。もちろん、集まった同窓生の皆さんは学長の来賓には感激しておりました。新潟には白尾学長、福井には久保木学長にご出席頂いたと記憶しております。

大学は同窓会活動に、本当に協力を頂いており、会計決算のご指導や役員会開催準備など、時間を抜きのお手伝いに感謝する次第です。

おかげさまで支部設立も増えてまいりましたが、まだ満足までは行きません。もう一息です。未組織の県の皆様方、設立に向けて努力をお願いします。そして、大学の学長を来賓として呼び頂き、大学の現況報告を聞いたり、懐かしい青春時代をすごした都留を思い出したりして、楽しい支部大会を開いてください。

お恥ずかしいながら私の事務局次長としての仕事ぶりは、会長や事務局長あるいは他の執行部役員に、おんぶに抱っここの状態で末席を汚しておりますが、会報を作成する時期になりますと、支部設立を心から願うことの繰り返しです。

都留文科大学同窓生の皆様、今後も同窓会活動にご協力のほどよろしくお願いいたします。

# お礼とお別れ



都留文科大学学長

**金子 博**

全国の同窓生の皆様には、ご健勝にて益々のご活躍のこととお喜び申し上げます。

さて、私の学長任期もあとわずかとなりました。この3月でちょうど定年となりまして、本学で30年余り、足掛け40年の教員生活が終わろうとしています。今春の入試では、本学で教え始めた頃のゼミ生だった卒業生の、その娘さんが本学を受験し、合格してくれたという、教師冥利につきるうれしいことがありました。まことに長いような、また短くも感じる歲月ですが、都留文科大学に在ったことは私の人生の幸運であり、そこで出会えた多くの卒業生、また諸先輩、同僚の教職員の皆様から心からの感謝を申し上げたいと思います。

6年前に久保木前学長から、「これからが本当に大変な時だよ。」と、そう激励され、半ば脅かされながら学長職に就きました。誰の中にもそんな認識があったと思います。言うまでもなく、少子化、低成長、構造改革、地方の財政難、そして法人化の波(本学も平成21年からの法人移行が決定し、今その準備作業中です)と、そんな状況下で、大学生生き残り競争にどう

勝つか、問題はその一点です。今朝の新聞広告の、ある総合誌の大見出しも「崖っぷち、日本の大学」でした。何も大学に限ったことではないだろうと、そう毒突きながらも、やはり思いは本学のあるべき、そして勝ち残れる姿のことへ行きます。

これも新聞記事ですが、某作家が、世に蔓延するキャッチコピー文体的言語のことを書いていました。要するに、言葉がリアルを喪失してどこまでも軽く消費されていることを憂えているわけです。「生き残れるか」「勝つか敗けるか」と、ついそんな風に私自身も言うてしまうのですが、百年の計たる教育、この国の高等教育のあるべき姿について、本当に深い所で受けとめ、重い言葉で語ってきたかと、その点になると憾みが残ります。こういう時こそ、少し遠くを見て、じっくり構えることが大切だとは思いますが。

むろん本学は決して「崖っぷち」などにはないと思っています。また本学のブランド力には自信を持ってよいと思っています。4月よりの今谷新学長の下で、本学の伝統たる全員参加型の大学運営はまた新しい知恵を生み出し、大学はしっかりと生き延び、発展して行くものと確信しています。私の在任中、同窓会の皆様から寄せてくださった大学支援、とりわけ教職に関わる支援の充実は特記すべき、本当にありがたいことでした。また、同窓生の皆様のそれぞれの活躍ぶりは何よりの励ましとなりました。そのことを最後に申し添えて、決して「大過なく」とは申せませんが、30年間お世話になった大学と、そして同窓生の皆様へのお礼とお別れの挨拶といたします。

## 平成19年度 都留文科大学同窓会都道府県別会員数

No	都道府県名	卒業生数	No	都道府県名	卒業生数	No	都道府県名	卒業生数
1	北海道	743	17	石川県	560	33	岡山県	384
2	青森県	228	18	福井県	436	34	広島県	501
3	岩手県	47	19	山梨県	3,222	35	山口県	179
4	宮城県	592	20	長野県	890	36	徳島県	347
5	秋田県	208	21	岐阜県	476	37	香川県	141
6	山形県	295	22	静岡県	1,182	38	愛媛県	257
7	福島県	719	23	愛知県	1,198	39	高知県	73
8	茨城県	363	24	三重県	364	40	福岡県	267
9	栃木県	388	25	滋賀県	96	41	佐賀県	85
10	群馬県	293	26	京都府	262	42	長崎県	212
11	埼玉県	597	27	大阪府	579	43	熊本県	209
12	千葉県	626	28	兵庫県	868	44	大分県	108
13	東京都	1,541	29	奈良県	106	45	宮崎県	139
14	神奈川県	1,439	30	和歌山県	179	46	鹿児島県	371
15	新潟県	559	31	鳥取県	157	47	沖縄県	145
16	富山県	512	32	島根県	219	48	不明者	2,969

合計 26,731

支部設立済都道府県

平成19年4月1日現在

## 「家庭教材研究」 から家族の動向を 読む

都留文科大学退官教授  
初等教育学科教授

三井 須美子



私はこの春に定年退職の日を迎えます。初等教育学科所属教員としての31年間に様々な科目を担当しましたが、家庭教材研究だけは初年度から継続してきました。同科目が対象とする家族は、この三分の一世紀ほどの期間においても変化し続けています。なかでも、日本政府が国際連合総会で採択された2件の条約—女性(女子)に対するあらゆる形態の差別撤廃条約と子ども(児童)の権利条約を批准したことによって、夫と妻、

親と子どもとの関係改善に弾みがついてきました。

私は今年度も受講生の皆さんに出身地の自治体の取り組みを報告してもらいました。そのなかの「静岡市男女共同参画行動計画」(2004年度～2008年度)では、「基本的施策2—男女の人権を尊重する教育や学習の充実と意識改革」が明記されています。山梨県中巨摩郡昭和町は2012年度までのプランの名称を「共に生き生き輝け昭和」とし、基本目標の第一に「互いの人権を尊重しあい、性差別のない家族づくり」を掲げています。

青森市の子ども委員会が作成した「あなたにも、ある! 子どもの権利条約」の文書には、「愛し、愛される権利、いじめられたり、命令・服従を強制されない権利、みんなと異なっていることを認められる権利、みんな平等である権利、考えを言う権利」が掲示されています。

これらは人類の多年にわたる努力の成果であって、世界的な規模で描く家族像としても期待されることでしょう。

## 「都留大での30年 ～退職のご挨拶～」

都留文科大学退官教授  
初等教育学科教授

小林 重章



この3月、私は定年という人生の節目を迎えます。都留文科大学に着任したのは1978(昭和53)年4月ですから、もう30年になるわけです。この30年を長いと考えるか短いとみるか、まだ判断が定まりません。しかし気が短く、粘り強さに欠けることを自覚する私が、よくここまでやってこられたなあというのが正直なところです。それはまず、多くの先輩や同僚の諸先生のご指導、事務局の方々のご支援のお陰です。それに、私の拙い講義に熱心に耳を傾けてくれた誠実な学生の存在も忘れてはな

らないことだと思います。着任当時、現在の1号館は本館と呼ばれ、講義室のほか、2～3人が同居する研究室、会議室、そして図書室もこの建物の中にありました。これが大学かと思ったほどです。でも405教室(当時一番広い教室で、ここで初等教育原理や教育内容論や日本教育史の講義をしました)の学生諸君は、まっすぐに私の方に顔を向けて学ぶ構えをはっきり示してくれました。その後大学は大きく変貌を遂げましたが、学生の基本的な気質はほとんど変わっていないように思われます。昔の学生はもっと大人だったかなとも思うのですが……。

先年『都留文科大学創立五十年記念誌』が刊行されましたが、福田、寺門、植村の三先生とともにその編集の仕事をさせていただきました。その際同窓会から多大なご協力をいただくことができました。

また同窓生が寄稿してくださった文章からは大きな励ましをいただくこともできました。この困難な時代に、卒業生の皆さんのご活躍の一端に触れることができたことはほんとうに嬉しいことでした。

## 「同窓会寄贈図書 と新図書館」

都留文科大学退官教授  
国文学科教授

稀岡 勝



新図書館もすっかりキャンパスになじんで、見慣れた風景となった。委員の一人として新館建設にかかわったので一入感慨が深い。雑草だらけの広い空き地がキレイに整地され、やがて骨組が立ち上がり日に日に上へ伸びていく。一限の授業のため前泊した大学会館から歩いてくると、建設現場では作業員が朝礼やラジオ体操をしているのを目にした。

こうして完成した新しい図書館は、ゆったりしたスペー

スがことのほか好評のようである。ただ新しい皮袋に新しい酒といかなかったことがいかにも残念である。図書館改革の絶好のチャンスを逸してしまった。蔵書は図書館の生命と言われるが、現在書架に並んでいるものは旧館の資料をソックリそのまま移しただけだから、「必要なもの、読みたいものが無い」という学生達の不満は一向に解消されないことになる。

一つの変化は同窓会からの多額の寄付金によって目玉となりそうなコレクションが加わったことであろう。これが同窓会寄贈図書で、洋古書、洋雑誌のバックナンバー、絵本の古典などが中心になっている。将来これらの資料を活用する人材が輩出することを願って止まない。

貴重書室の背皮の洋書が並んでいる棚に『センチュリー百科事典』がある。余命いくばくもない尾崎紅葉がこれを丸善で購求した話は有名である。夏目漱石も留学先で求め日本に持ち帰っている。文豪ゆかりの書物が見られることは嬉しい限りである。

# 活躍する同窓生

## サラリーマン と政治

富士河口湖町議会議員

**外川 正純**

(富士観光開発(株)勤務)



富士河口湖町は平成の大合併に伴い平成15年に河口湖町と勝山村、足和田村そしてオウム真理教事件のあった上九一色村と合併して出来た町です。富士五湖の内4つの湖を有する町となりました。

そして20年間町長を務めた小佐野常夫氏を長期政権の弊害と立ち上がった町議半数で見事倒し、新しく渡辺凱保町長を誕生させた一員に私がいました。

これまでは合併特例債で100億円を超える事業をし、多くの箱物(町民プール・いやしの里の20棟を越す茅葺家・温泉施設など)を造って来た為、財政の健全化、施設の運営方法など多くの後片付け諸問題を一つ一つ片付けていかなければなりません。しかも歳月は人を待ちません。一日という日も最近はあるという間に過ぎてしまいます。若い頃は、又学生時代はもっとゆとりがあった想いが湧いてきますのは私だけでしょうか。

私は昭和47年に英文科を卒業しました。同窓会副会長の小林孝次さん達と学生時代を過ごしました。学生時代は学生運動が盛んでしたが、私たちは授業が休講になることがうれしいノンポリでした。もちろんその当時は政治には無関心でした。まさに同級生と遊びまわるのが一番でした。そんな私に大学の事務局では都内の高校の先生に推薦していただきました。しかしこれを見事に裏切りなんと地元の企業、富士観光開発(株)に就職してしまいました。今でも大学の事務局には頭が上がりません。

富士観光開発(株)はレジャー産業の会社で富士桜高原別荘地を中心にゴルフ場を始め多くの施設を経営する会社でした。当時、世間では赤軍派の浅間山荘事件、そして関わりが出てくる今太閤田中角栄の列島改造論ブームで日本経済が世界に肩を並べるようになって来た時でした。私は観光に従事した後取引先の住友信託銀行に3年間出向して不動産の仕事に従事しその後、昭和58年当社の志村哲良社長が山梨選挙区から参議院議員に立候補し当選したのを契機に秘書になり会社の秘書室を兼務しながら18年間政

治とサラリーマンを続けることになりました。当時はまだ田中角栄の力が強く志村議員にも派閥に入るよう毎日電話がありました。無派閥で立候補したからとそれを断り続けました。今では考えられないことです。これには今考えても血の気が引く程身震いします。こういう行動力、決断力をこれからの秘書の仕事を通じて、身に付けて行こうと感じ、学んできたつもりです。

当時から山梨県の参議院選挙は1人区の為自民党と社会党の戦いでした。昭和58年選挙は神沢浄元議員と戦い勝ちましたが、平成元年の選挙は消費税選挙で惜敗し、3年後の選挙は前山梨県知事望月氏でしたが大勝しました。この頃から志村議員と輿石東参議院議員との親しいお付き合いが始まりました。公私とも親しく、私も藤野の自宅や志村議員の大月市の自宅でもお越しいただきお会いしました。

日本経済もバブルが弾けるまでは恐いものなしの社会情勢でした。当社の富士桜高原別荘地に別荘を持ち、当社のゴルフ場の富士桜カントリークラブでプレーを楽しむ議員には元総理の竹下登氏、安倍晋太郎元大臣など多くの大物議員がお見えになりました。私もその頃が気配りなど忙しく、でも楽しい毎日でした。竹下総理は数字に明るく山荘でも楽しく歓談したのが懐かしいです。安倍晋三前総理もお父さんの安倍晋太郎元大臣の秘書時代からお見えになり気配りの利く優しい政治家です。岸元総理からの山荘で、富士山が大好きと言ってよく利用されています。

ご存知のように河口湖近辺の冬は寒く観光客が非常に少なくなります。そこで人工スキー場をと考えて開発し出来たのが天神山スキー場(ふじてんスキーリゾート)でした。これで当社も年間経営がやっと出来上がりました。地域の方もそれに付随した事業が派生して起きてきました。これも政治との結びつき、会社だけの利益でなく地元とのつながりでもあるかと思えます。

今は富士河口湖町の新町長の援護射撃、羅針盤となって又会社の発展の為、地域住民の幸せの為これからの人生を頑張るつもりです。

# 活躍する同窓生

## 我が教職の原点は都留大にあり

千葉市教育委員会  
学校教育部学事課  
課長 荒川 眞 治



### 1 近況

現在私は、千葉市教育委員会学校教育部学事課に身を置いている。事業は主に、就学関係、就学援助、私立幼稚園補助、市立高校、学校事故等多岐に亘るが、緊急事態への対応も担当している。

中でも、ここ昨今の大きな課題としては、平成13年度の大阪池田小事件、同17年度の、通学時に児童が被害者となる事件の続発に伴う安全対策があった。市教委として、「地域の子どもは地域で守る」というスローガンを掲げ、市民による安全ボランティア活動を、市立小、中、養護、高等学校180校を核として展開した。今では、児童生徒を見守る安全ボランティアが1万5千人に達し、着実に拡充している。

元気に「行って来ます」と家を出た子どもが、笑顔で「ただいま」と帰れるようにしようと取り組んでいるところである。

今後も地域にしっかり根付き、息の長い活動となるよう進めていきたいと考えている。

### 2 大学時代

3年の浪人の後、都留大生となった私は、1年生の時から先輩(単に年齢の差だけであったが)といわれ、嬉しくもあり恥ずかしくもあった。当初は、同学年よりも上級生と良くつきあっていた。

名古屋から出てきた私にとって、谷村での生活は、まさに、タイムショックであった。谷村の地は、時代を遡ったような懐かしさを覚え、心地よかった。何よりも、美しい自然に包まれ、時間がゆったりと流れ、地域の人々の人情味の温かさに触れ、これほどの開放感、安堵感を味わったのは、初めてのことであった。学生は、北は北海道から南は九州まで、全国各地から集まり、純朴な者が多く、友人は毎日に増えていった。

大学時代は、折角素晴らしい自然の中にいるのだからと、その機会を活かすために写真部に入った。いつもカメラを肩に提げ、富士山周辺を歩き回り、写真を撮りまくった。木造の狭い暗室で写真を焼き、

狭い部室で互いの作品を見せ合い、熱く批評し合うのが大きな楽しみであった。恒例の合宿も思い出深い。部員は、行動を共にし、喜怒哀楽を共にし、自然と家族のような関係になっていった。

千葉市に居住して、早32年となるが、休みが取れると、富士山周辺に自然と足が向き、よき思い出に耽ることが度々であった。

### 3 教職の原点

4年次でお世話になった故篠原先生が、今でも印象深く思い出される。先生には、教師の心構えを厳しく優しく教えていただいた。講義中、学生がよそ見をしていると、先生は真剣な顔で、教室中に響く大きな声で学生を叱った。「人の話を聞くときは、人の目を見るだ!」と、そして、心の中を見通すような目で学生を見つめた。私は教師になってから、いつしか子どもたちに同じ事を言うようになっていた。また、子どもに目を向けさせるだけでなく、自らも、子どもの目を、心を見つめることを心がけるようにしていた。

篠原先生は元より、大学時代に諸先生方に教えていただいたことは、心に染みこみ、教職に就いてからの様々な場面で、ふっと表れていたように思う。

雄大な富士の懷に抱かれ過ごした4年間の、かけがえのない学生時代が、私の教職人生の大きな糧となっている。

まさに、我が教職の原点は、都留大にある。



講義棟  
昭和48年頃の撮影

### 定着をみたミニ講演会

北海道支部長 横山 勲

本年度の桂友会北海道支部総会は、8月4日(土)札幌市において行われました。あいにく前日から台風の通過もありましたが、遠くは函館等からも駆けつけ、懐かしい顔ぶれの中で催すことができました。

はじめに4月に行われた理事会からとして、今年度より新卒者の支部登録制度が新しい事業として設けられたことや、大学に公立大学法人化準備委員会が設置されたことなどが報告されました。

さて、支部活性化の一翼を担うミニ講演会も4年目を迎えました。今年度は、国学院短期大学教授の播磨光寿先生をお招きして『私のこだわってきたこと』と題して講演会をもちました。先生は、本学国文学科の出身で、その後大学院を経て長く北海道新聞・朝日カルチャーセンターなどで幅広く活躍しています。講演では、先生が長年携わってきた古典文学研究の姿勢を説かれ、終わりに「長くこだわってきた古典文学の伝道師として、この先も発信を続けたい」と結ばれました。今年も短い時間ながら充実した講演内容で終えることができ、支部行事として着

実に定着をみているという感を深くしました。

その後、恒例の懇親会に移り、現在、民主党の参議院議員会長をされている奥石東氏と同期の日下顧問からは、今ではなかなか聞くことができない短大時代の話を聞くことができました。特に、設備が不足がちの中で、当時の先生たちと学生たちの努力が、4年制大学へと結実していくという話は、都留の原点を目的の当たりにする思いでした。

この先も、支部桂友会が桂川の流れのように永く豊かな会として、多くの会員が参加する場にしようということを約して今年度の会を閉じました。

#### ◎平成19年度支部役員

- |       |       |       |       |
|-------|-------|-------|-------|
| ○顧問   | 日下 功  | ○会計監査 | 西山 肇  |
| 〃     | 熊谷 勲  | ○事務局長 | 山本 洋嗣 |
| 〃     | 当銀 誠博 | ○事務次長 | 神野 昌代 |
| ○支部長  | 横山 勲  | ○事務局員 | 大花 学  |
| ○副支部長 | 加藤 佳栄 | 〃     | 桜田 琢  |
| 〃     | 井口 郁将 | 〃     | 金子 歩  |
| 〃     | 杉森 繁樹 |       |       |
| ○会計   | 西道 直樹 | ○本部理事 | 横山 勲  |
| ○会計監査 | 西多 弘  | ○本部理事 | 当銀 誠博 |

### うれしく ありがたく 宮城県支部は発展しています

宮城県支部長 鎌田 清

うれしく 宮城県支部のあることを報告します。一昨年度より教員採用試験支援として学習会を行ってききましたが、次々と合格者が出ています。全国に先駆け、同窓会の範となり、合格者が増すことの喜びがあります。支部総会は50名に達する参加者で仲間が増すことの喜びがあります。若い人から退職された先輩までが集う、都留大生ならではの喜びがあります。うれしくて、うれしくて。

ありがたく この会のあることもお伝えします。つらく悲しいことも多いのですが、病気をされている先輩がいれば、頑張ってくださいと後輩が心から応援します。同窓生に事故があれば、やはり何とか頑張ると応援しています。同窓生の大きな活躍もあり、それが耳にはいと、感動的に電話で話してくる仲間(同窓生)もいます。仲間が多くあり、心を開いてよき時間を過ごせること、人を感じ心を感じあえること、ありがたくて、ありがたくて。今、時代はここが大切なのではないのでしょうか。それを、

都留大同窓生、宮城県支部は訴えています。



#### ◎宮城県支部役員

- |       |  |
|-------|--|
| ○名誉会長 | 鎌田 光彦・小野 俊次  |
| ○会長   | 鎌田 清   |
| ○副会長  | 齋藤 章夫・相沢 光信・千葉 龍正<br>菅野 俊雄・高橋 博・森田 宏彦<br>白幡 守雄・高橋 克己 |
| ○事務局  | 布施 勝久・繁田 由美・坂本 忠厚<br>一條 良介・及川 恵子・安部 順子               |
| ○会計   | 横山 英美・小野寺直美  |
| ○幹事   | 〈仙南〉佐々木 仁・伊藤 早苗                                      |
| ○幹事   | 〈仙台〉浅野 俊夫・蓮沼 秀行                                      |
| ○幹事   | 〈中央〉松浦 和浩・齋藤 竜一                                      |
| ○幹事   | 〈古川〉伊藤 稔・小笠原裕見子                                      |
| ○幹事   | 〈栗原〉千葉 睦子・後藤 咲織                                      |
| ○幹事   | 〈石巻〉伊藤ひろみ  |
| ○幹事   | 〈気仙沼〉菅原 義之   |

### 「べにばな会」の歩みと近況

山形県支部長 武田 茂行

全国の同窓会の皆様には、ますますご健勝にてご活躍のこととお慶び申し上げます。

山形支部では、平成19年11月10日(土)に、国文学科教授寺門日出男先生をお迎えして、第8回総会、懇親会を開催しました。県内各地より11名の会員の参加をいただき、成功裏に終了することができました。山形県支部は、設立15周年を経て、会員同士の交流も年々盛んになっています。総会では、新役員、規約、予算決算の承認、今後の活動の方向性、様々な情報交換、活発な質疑が行われました。

また、寺門先生のご講話では、大学の現況、大学の先生方のご活躍、後輩達の活躍など、たくさんの情報をいただきました。ありがとうございました。

設立当初は、卒業生を中心とした、会員の親睦を図ることと情報交換を活性化することを主たる目的として取り組んできましたが、大学や学生を取り巻く環境の変化により、同窓会本部や大学への支援、協力も大切にして取り組んでいく必要があります。特に、在校生との懇話会には、支部とし

ても情報を提供し、就職活動の手助けができればと考えています。

当面の課題としては、会員に、隔年で開催している総会、懇親会への参加を呼びかけ、広げていくこと、在校生との連絡を密にしていくことです。

最後に、20年度からの新しい会長にバトンタッチします。これまでのご支援に心より感謝申し上げます。これまで以上に同窓本部並びに大学、他支部からのご支援をよろしく願います。



#### ◎20・21年度の役員

- |      |   |
|------|---|
| ○会長  | 神尾 正俊   |
| ○副会長 | 小川 秀人<br>鈴木 雄二  |
| ○監事  | 佐藤 英樹   |
| ○理事  | 和泉 一彦・白林 和夫・渡邊 隆<br>武田 茂行・佐藤 成美・佐藤 英樹<br>奥山 広幸・俵谷 育・原田 清一<br>若月 力 |

### 茨城支部同窓会総会(土浦市)報告

茨城県支部長 宮内 健治

全国の同窓生の皆様には、お元気で御活躍のことと存じます。茨城支部同窓会では、6月に県南の土浦市の港近くのCANKOH(観光)ホテルで同窓会総会を開催しました。当日は、ベテラン教員から若手教員まで幅広い年代の同窓生の参加がありました。支部長から4月の理事会報告等大学の現状の紹介があり、その後交流の場をもちました。

当日は、3月に御勇退された飯島郁郎先生(前銚田小学校長)に参加いただきました。大学が草創期の頃の苦勞された話(下宿、学生生活)では、現在の状況とは隔世の感があります。社会学科を卒業した若い先生の参加もあり、大学時代の話や、都留文科大前駅の整備状況や図書館等施設の充実等大学の変貌も驚くばかりです。年代は異なっても同じ大学に学んだ同窓生同士が大学時代の思い出に花を咲かせ、次回の再会を約束しました。

皆様の益々の御活躍と御健康を祈念しています。

#### ◎茨城県支部役員

- 顧問 大川 英世 (昭45英文)
- 支部長 宮内 健治 (昭52国文)
- 副支部長 井坂 雄爾 (昭61初教)
- 理事 武田 真一 (昭57英文)
- 理事 新井田由美 (昭62英文)
- 理事 石川 順子 (平元国文)
- 理事 関野 昌彦 (平6英文)
- 理事 前川佐知子 (平8国文)



### 『この機会に、石川へ』

石川県支部長 矢田 史朗

平成19年3月25日、石川県は能登半島地震に見舞われました。最大で震度6強を観測した強い揺れは、本県では前例のない災害となり、日常生活にはもちろん主要産業である観光にも大打撃を与えました。

この被害の中、全国の皆様から被災直後より激励とご支援をいただきました。この場を借りまして厚く御礼申し上げます。

今、復興は順調に進んでいますが、元どおりになるのは、まだ先のこととなります。被災地を元気にするためにも、同窓生の皆様、この機会に是非、石川・能登へ観光にお出かけ下さい。石川在住の同窓生にお声掛けを賜れば、旧交も温まり、更に赴き深い旅となるかと存じます。

さて、地震後、県内が落ち着きを取り戻した7月14日、金沢市内にて27名の参加を得て、第4回同窓会支部総会を開催しました。

総会に先立って「第2回都留文科大公開講座」として俳文学研究者の山根公氏(昭41国文卒)を講師に『金沢文学散歩～尾山神社の詩歌の碑を訪ねて～』を開催しました。短時間

ではありましたが、改めて金沢の見どころを再発見する好機となりました。

さて、総会には大学から初等教育学科の植村憲治教授にも遠路お越しいただきました。発展する大学のお話にも、遠く離れた都留を身近に感じました。引き続いて開催した懇親会では思い出話や近況報告に時を忘れ、打ち解けて歓談の一時を過ごすことができました。恒例となった「武田節」「花のかげ」の合唱に金沢の夏の宵は更けていきました。

支部創設6年目となりましたが、今後とも継続的に支部活動を行ってまいります。都留という空間、大学という場での共通の経験を持つ同窓生との交流には、世代を超えた意外な発見があります。是非、支部同窓会活動の輪にご参加下さい。



### きずなも固く、福井県支部

福井県支部長 伊藤 俊英

本年度の総会を11月23日に開催しました。できるだけ多くの会員に来ていただけるよう願っていましたが、今回は12名にとどまりました。3連休の中という参加ににくい日取りで、申し訳なく思いました。しかし、返信の葉書では温かいお言葉や近況ご報告をたくさんいただき、心から御礼申し上げます。会員の固いきずなを実感でき、うれしく思いました。

総会に引き続き、福井県教育功労賞を受賞された河合岩暢先生(昭44国)に受賞記念のご講演をいただきました。先生は福井県の教育界に大きな足跡を残されました。大学での思い出や新卒教員の頃のお話、また、国語教育、学校経営、社会教育、教育行政など、幅広く豊富な経験と経歴からのご体験を題材に、教育のあり方や人の生き方などを熱心にご講演いただきました。剣道の大家である先生の、気さくで飾らない、まっすぐなお人柄と風格に一同感銘を受けました。具体的で中身の濃い貴重な講演会でした。当日の参加者からは、もっとたくさんの会員に聞いてもらいたかったという声がありました。残念ながら時間を十分おとりできず、先生には大変申し訳なく

思いました。我が同窓生の中からの晴れのご受賞ということで、誠に喜ばしく、心からご祝辞を申し上げます。貴重なご講演、誠に有り難うございました。

総会後の懇親会では、福田修理事が撮影して来られた大学近辺の映像を見ながら、一同思い出話に花を咲かせました。参加者それぞれ世代の差はありますが、青春の一時期を過ごした第二の故郷、都留での思い出は共通しており、城山会ならではの懐かしいひと時でした。福田理事には楽しい宴にしてください本当に有り難うございました。

今後、当支部としては、新たな会員や若い会員にもご参加いただけるよう努めてまいりたいと思います。皆様の積極的なご協力をお願い致します。





### 桂川祭に参加して

静岡県支部長 松島 温通

18年度支部総会で意見のだされた桂川祭参加が実現されました。学生諸氏との多くの触れ合いの中で楽しい時を過ごすことができました。しかし若い同窓諸氏は学生歌「花のかげ」を知らないと言いきり感じました。支部総会は都留で開かれたのですが26名の多くの皆さんの出席を得ました。(在校生7名・18年度の卒業生8名) 20年度から教職につく皆さんや試験に挑戦する皆さんとの懇談の中で多くの参考になる意見や経験談等吸収されることが多かった様に思います。尚20年度以降の役員が決まりました。

- 顧問 古泉 嘉一(33)・永田 富男(33)  
松島 温通(34)
- 支部長 鶴見 親義(41)
- 副支部長 工藤 誠(46)・根津 義(40)  
清水 猶(43)
- 庶務会計 大場 孝純(45)
- 監事 細田 和宏(44)・白井 泰(47)

- 理事 星野 康(51)・西島 敏雄(54)  
森山 和保(46)・塩沢 尚男(44)

第2回教員採用試験対策研修会が下記のように開催されました。参加者は13名です。

- 1 日時 平成19年6月16日(土) 10時~15時
- 2 会場 三島商工会議所(三島市一番町2-29)
- 3 内容 県教育の目指すもの・教師としての心得指導の基本と児童生徒への接し方  
筆記試験と面接に対する態度今日の課題  
講師は現校長長田中正雄(46)鈴木良隆(46)の両氏でした。



県支部総会出席の皆さん



教員採用試験対策研修会の様子

### 県内の連携を深める地域幹事会

愛知県支部長 鈴木 定夫

愛知県には、8つの教育行政区がある。そこで、各区域から地域幹事を選び、年1回地域幹事会を開いている。第1回は名古屋で、第2回は知多で、そして、第3回の本年度は新城・設楽で開いた。今回は、泊を伴う地域幹事会となった。

また、今回から地域の実情に合わせて複数人の参加も可としたことにより13名が参加した。

会の内容は以下の通りである。

- 1 はじめのことば(開催地幹事 林)
- 2 支部長あいさつ(田中)
- 3 自己紹介
- 4 議事
  - (1)各地域の活動について
  - (2)規約改正について
  - (3)県支部総会について
  - (4)支部長並びに地域幹事の選任
  - (5)その他(次回開催地及び日時)
- 5 乾杯(前回開催地幹事 土井)=懇談=

### 6 おわりのことば(次回開催地幹事 平野)

平成22年度の支部総会までに各地域の活動を活発にし、100名以上の参加者を目指すことを確認。

◎平成20年度の支部組織

- 支部長 鈴木 定夫(名古屋 47初)
- 事務局長 新年度に決定
- 地域幹事 名古屋 平手 孝幸(55初)
- 尾 張 右高 秀美(51英)
- 海 部 平野 豊(56初)
- 知 多 土井 利一(46初)
- 西 三 河 平岩 篤(48国)
- 豊田三好 岡田 正弘(51国)
- 新城設楽 林 亨(51初)
- 東 三 河 新年度に決定



第3回地域幹事会並びに懇親会「湯谷温泉にて」

### 『英語落語』を楽しむ

兵庫県支部長 井上 弘和

風薫る新緑の好季節6月2日(土)タカラジェンヌの殿堂の地「宝塚ワシントンホテル」で、第17回目の支部総会を開催した。この時期なら多数の参加が見込めるのではないかと設定したもの、各地で様々な行事があり、参加者が僅か20名余りと少なかったのは残念であった。我が支部の同窓生の数は多く、現在住所が確認されているだけでも700名余りで、実際には800名近いのではないかと。

総会では、同窓会本部の副会長である石原誠治氏より最近の大学の規模や現状とその周辺の様子について話を聞いた。「谷村から現在の地に移り、立派な建物が建ち並び施設設備も充実し学科数も増えて、全国区の大学として多くの優秀な学生が集まってきた。また町並もすっかり変わり『大学前』という富士急の駅もできて大きく変貌している。」とのことでした。「一度みんなでバスを仕立てて行ってみたいな〜」という声が上がった。この声は今まで何度も上がっては消えて、まだ一度も実現に至っていない。団塊の世代が次々と退職していく中で、近い内には是非実現したいものである。今回の講演会は趣向を

変えて、宮下明浩氏による英語落語adoを聞いた。英語から長年離れている者にとってはなかなか笑えず、通訳してもらってやっと落ちが分かるといった情けない場面もあったが結構盛り上がり楽しむことができた。懇親会では全員が学生時代の思い出を語り、それぞれの年代の学生生活が懐かしく蘇ってきた。同じ「都留」で学んだという同窓意識が学年の差を越えて楽しく語り合うことができた。今こそこのような繋がりが求められているのではないと思われる。

来年は神戸ブロックでの開催。更なる多数の参加を期待している。(文責 大榎)



### 支部設立三年目を迎えて

島根県支部 小藤 貢

平成19年8月4日(土)に都留文科大学同窓会島根県支部の総会ならびに懇親会を開催しました。時期的に皆さんの都合がよくなかったのか、参加者が僅か8名という寂しい会となりました。

今年は、役員改選の年であり、改選について協議したところ、一期が終わったばかりなので、引き続きお願いしたいという意見が多く、会長の承諾があってもう一期お世話になることになりました。

この席で、今後のあり方について話題となり、さらに充実・発展する支部となるには、会員相互の連絡が必要であり、近隣にいる会員に声を掛け合い、つながりを深め合っていくことが大切であるという結論になり、名簿作成に取りかかることになりました。

懇親会では、少人数のこともあり、打ち解けた雰囲気の中、懐かしい都留の話題で終始楽しい話でもちぎりでした。

決定した、19・20年度の役員を紹介します。

- ◎島根県支部役員(卒業年度)
- 支部会長 木村 晴男(S44)
- 副会長 服部 哲郎(S44)・方山 敦司(S44)
- 中谷 真澄(S47)
- 理事 寿 慧信(S42)・池田 稔(S43)
- 伊藤 博(S44)・楨野 博巳(S45)
- 古瀬 厚義(S46)・飯島 良子(S53)
- 事務局長 小藤 貢(S45)



### 支部結成から5年目の岡山

岡山県支部長 原田 直樹

平成15年8月に岡山県支部が誕生してから、早いもので5年目を迎えました。

結成以来、8月第3日曜日に支部総会を開催してきましたが、平成17年度(第3回)支部総会から2月11日(建国記念の日)に岡山市内で開催することになり、平成19年度もその予定で、ただいま準備を進めているところであります。

さて、平成19年度の本部同窓会理事会及び懇話会には残念ながら出席できませんでした。この場をお借りしてお詫びいたします。

平成19年度の支部総会の様子を写真でお知らせしたいのですが、原稿締め切り後に開催するので、昨年度の総会の様子を文章にしてみます。

会場は、岡山市内の割烹「山佐本陣」といいます。14名の会員が集いました。男性10名女性4名でありました。総会と懇親会に分けて実施しましたがやはり4回目ともなると、気心知れた先輩、後輩という感じで、実に居心地よい文大空間が醸成されて盃を交わすにつれ、谷村の今昔物語に花が咲き、時の経つ

のも忘れて、老若男女はどっぷりと文大生に戻っておりました。下駄を履いて下谷から田んぼの中を歩いて大学へ通ったなあ、帰りに国際に寄って無一文になったなあなどと、もうその顔は童顔そのもの。大学紛争の最中、あちこちのガラスが割れて修繕に行ったのは私でした。鏡もよくなって、これも私が付け替えにいきました。営繕に貢献したので単位が出て、卒業できたのかも知れません。

盛り上がりはピークに、会を終えるときさあ二次会へ、これもワンパターン化してきました。ここ3年本部からおいでいただいていないので、5年目の今年こそは学長様、同窓会長様をお迎えできたらと思っています。写真撮影、支部旗持込みを心に期して。

- ◎岡山県支部役員
- 支部長 原田 直樹
- 副支部長 菱川 徹
- 理事 岩城 孝志・坂上 信二・中野 元雄
- 土師 康生
- 事務局 岩城 孝志・岩崎 美幸・岡本 智江

### 第12回広島県支部総会

広島県支部理事 猪原 憲三

平成19年7月28日(土)、県支部総会を尾道の奥座敷「尾道ふれあいの里」で開催しました。

昨年のは呉市での支部総会の時、松田会長より、「来年は是非、県東部で開催してほしい。」という依頼がありました。県東部といえば、三原・尾道・福山方面です。金久顧問を中心に、現地実行委員会を発足し、総会までに3回の会合を持ち、会合の度に県同窓会へ向けての準備と親睦を図りました。

総会には、大学から初等教育学科教授の高田理孝先生を招聘し、最近の学校の状況を詳しく聞かせていただきました。総会の後は、夜が更けるのも忘れて、懐かしい大学時代の話や近況を交流しました。

広島では、県支部同窓会のさらなる発展のため、県内各地から役員を選出したり、各地で総会を開催し、同窓生の輪が広がる取り組みを進めています。

- ◎広島県支部役員
- 顧問 金久 陸彦(昭39)
- 会長 松田 昌紀(昭39)
- 副会長 中西 正一(昭42)
- 副会長 小谷 桂司(昭45)
- 監査 三井 昌宏(昭44)
- 監査 白石 隆(昭56)
- 事務局 二宮 正(昭50)
- 理事 10名
- 幹事 8名



## 西南西に針路をとれ (熊本は今...)

熊本県支部副会長 松村 順三

大学卒業後38年、過ぎ去った年月は長いようでもあり、また、一瞬であった感もします。

同窓会の集まりは2年に1回のため、「本年度の熊本支部は役員会を2回開いただけの活動で、同窓会報に載せる記事が特にないので、退職を前にしたおまえが書け」との倉岡支部長さんからのお話で、私がパソコンにむかいました。

『西南西に針路をとれ』何だ!!この表題は?とお思いでしょうが、ご都合がつかれましたら熊本に来られませんか…。熊本は今こうですよと少しPRさせていただき、支部便りに代えたいと思います。

熊本は今、熊本城築城400年祭が行われています。熊本城は日本三大名城の一つと称され、加藤清正が築城し、武者返しといわれる石垣が特に有名で忍者でも石垣を登っていくことができないような造りになっています。この石垣組みの技術は、肥後の石工たちに受け継がれ、数多くの石橋を現代の県下各

地に残してくれています。中でも江戸末期、惣庄屋布田保之助と石工橋本勘五郎が造った通潤橋は、全国的にその名を知られています。なお橋本勘五郎は、日本橋や皇居の二重橋の石工としても有名です。

熊本城は明治の西南の役で天守閣等が炎上しましたが、その後鉄筋コンクリートで再建され、この度築城400年を記念して本丸御殿も再建されました。加藤清正の築城当時の姿が再現されてきています。一見の価値ありですよ…。

火の国熊本といえば阿蘇山、世界一の規模の外輪山をもつ活火山で、噴煙をあげている時は熊本市にある私の学校からも見えますが、今は活動は穏やかで観光には最適です。山頂に登り火口を見下ろすと、自然の営みの偉大さにしばし我を忘れることができます。また、草原に放牧された牛の姿を眺めているだけでも、追われることのない悠々とした時を過ごし、心癒されることと思います。

NHK連続テレビ小説『藍より青し』の舞台となった天草等見どころ一杯の熊本へ、西南西に針路をとって一度は訪れてください。

## 長崎県支部の近況

長崎県支部長 西田 正人

全国の同窓生の皆様には、ますますご健勝にてご活躍のこととお喜び申し上げます。

この度、長崎県支部長を柴田高明先輩より引き継ぐことになりました。柴田先輩には、支部設立から支部長としてお骨おりましたことにご一同感謝しております。次期支部長を予定しておりました宮下護先輩の突然の死去により、私におはちが回ってきた次第です。支部長としての役が務まるか心配ではありますが、精一杯頑張りますのでご指導ご協力よろしくお願ひいたします。

長崎県は、ご存知のとおり離島を多く抱え、会員が散らばっていて、なかなか集まりにくく、同窓会も開催しにくい状況です。役員会を開いた中で、支部組織の改編(ブロック制、同窓会開催場所の輪番制)等、今後の課題もごございます。この1年間を検討期間とすることも話し合っています。

また、少子高齢化の中、長崎県では人口の減少、学校統廃合が進んでいて、教員採用も極めて厳しい状況にあり、教員を目指す後輩たちのために何か支援できたらと考えています。

今回の役員会で決まった本県支部の新役員を紹介します。

### ◎長崎県支部役員

- 顧問 柴田 高明(昭39国)
- 支部長 西田 正人(昭41初)
- 副支部長 江口 匡彰(昭40初)・藤崎大吉郎(昭41国)
- 三宅 道夫(昭42初)
- 事務局長 明石 仁(昭46初)
- 庶務会計 渡邊 林(昭46初)
- 監事 浦 紘一郎(昭42初)・平山 繁壽(昭45初)
- 理事 浦田 勝一(昭46国)・牟田 茂博(昭45初)



## 鹿児島支部23年の近況

鹿児島県支部長 溝口 通大

年月の流れと共に、支部設立23年を迎え、会員330名(県内在住)になった。支部は桂川会(本土)、奄美会(奄美大島)から成り南北600kmに及んでいる。

設立23年を機に、会員相互の親睦や情報交換、さらに会員の絆を深め、21世紀を担う人材育成と心も体も健康であるように願いを込め、新たに平成20年をスタートした所である。

ところで、①大学も創立50周年を迎え、組織も整備された。②また、新図書館設立など充実されたことは同窓生としても願っていたことであった。③入試に関して本学と全国に試験会場があり、2004年から、新たに推薦試験会場が新設されたことなどは、本県としてうれしいかぎりである。

近年、本県教員及びその他の職種に合格する学生が減少する現状から、支部として何か側面から支援したいと考え、大学及びサポート室の指導をいただきながら、いろいろ試みた。19年度は、本県教員採用試験に3名が合格し、現在初任者研修に励み本県教育に貢献できる教師として力量を高めている。

学生に対する側面からの支援として、

- 学生の思いや質問を中心に…電話での応答
- 実技試験に対する助言
- また、本県のめざす教師像などから…助言した。

地域性ということでは、本県は大河ドラマ『篤姫』にスポットライトが当たっているが、時の流れの中で、その時代をどのように思い、どのように信念を培って生き抜いたかということ、[温故知新]のことわざに学びたいものである。



かごしま桂川会 平成19年11月14日  
会長植村和信代のもと開催  
写真：奄美会会長 大山典男代より

南北600km

### 山梨県支部の近況

山梨県支部長 齊木 高明

全国の同窓生の皆様には、ますます健勝にてお過ごしのことと存じます。多くの会員を抱える山梨県支部ですが、「あまり気負わず、気軽に、相互の親睦を大切に」を合い言葉に活動を進めて参りました。それでは、平成19年の山梨県支部の主な活動をご報告いたします。

まず、新春の1月27日に多くの会員のご参加をいただき、「興石東民主党参議院議員会長就任祝賀会及び国会報告会」を盛会に執り行うことができました。私ども同窓生の誇りである興石先生の就任をお祝いすると共に、相互の親睦を図ることができました。久しぶりにお会いできた方もおり、和やかな中に懐かしさあふれる会でありました。

7月29日には、本学の金子学長先生をお迎えする中で、2年に一度の山梨県支部の総会を開催いたしました。短い時間ではありましたが、過去2年間の事業が報告され、新役員承認と今後2年間の事が確認されました。以下総会で承認されました新役員を紹介します。

- 支部長 齊木 高明
- 副支部長 高野 英夫・倉田 由和
- 事務局長 柏木 精一
- 事務局次長 林 学・原 喜雄



### 後輩の支援活動を通して支部活動の活性化を図る

千葉県支部長 林 俊之

はじめに

今年度、千葉県では、教員採用試験第二次試験に向けて支部をあげて支援体制をとりました。

昨年度は、千葉県の教員をめざす学生の全員登載という支部はじめて以来の輝かしい成果を更に、継続発展させていきたいとの願いと学生諸氏の熱意を受けての取組みでした。

#### 第一次試験全員合格

今年、千葉県教員採用試験に挑戦した全ての学生が第一次試験に合格しました。これも、勝俣先生を中心としたキャリアサポート室並びに同窓会の皆様の積極的な働きかけの賜であると思います。

7月23日、24日の二日間、木更津市において第二次試験に向けて一泊二日の研修会を行いました。

【7月23日】木更津市立請西小学校

- \*講話：千葉県教育の現状と課題
- \*講義：千葉県教員採用対策指導
- \*実技：器械運動
- \*情報交換並びに交流会（割烹旅館：一楽）

【7月24日】割烹旅館：一楽

- \*講話：教員に求められる資質・力量及び人間性
- \*質疑応答

#### 19年度採用教員の参加

一日目の夜に行われた交流会には、19年度に採用された教員5名も参加し、二次試験に向けての心構えや教員としての4か月の体験などを学生諸氏と時間のたつのも忘れて語り合っていました。はじめての試みでしたが大きな手応えを感じました。

おわりに

教員採用の対策とあわせて、採用された教員の支援対応も支部としては大切にしていかなければならないと感じさせられた実り多い二日間でした。

### つながり・深め合う高知県支部

高知県支部 田辺 長美

高知県支部が発足して5年目となりました。支部結成以来、年に1~2回開催される総会・懇親会を年中行事に組み入れている同窓生もあり、毎回和やかな雰囲気で開催が行われています。

平成19年度の総会は、平成20年1月6日(日)に新年会をかねての開催でした。今回は高知県西部の四万十市での2回目の開催となり、7人の会員が出席しました。総会では、会長挨拶、18年度事業報告、決算報告、監査報告がなされ承認されました。事業報告では、支部長から4月の同窓会理事会の様子や各支部の活動内容などについて報告がありました。つながり合い・広げ合うことをめざしている高知県支部としては、在校生への支援がより有意義なものとなるように、本県の教員採用の状況等について情報発信を充実させていくことを確認しました。

続いて20年度の予算案が了承されました。事業計画として、会員相互のつながりを深め合うことを目的として、県内での宿泊研修も新しく計画されました。そして、総会への出席や会員加入の増加をめざして、卒業生への呼びかけに引き続き取り組

むことや魅力ある支部活動の研究を進めることについて話し合いました。

総会後の懇親会では、出席者の近況報告を行い、親睦を深めました。異動に伴い、学校現場での違いにとまどっていることや新たに発見したこと、学校での子どもたちの様子、退職された先輩たちの優雅な時間の過ごし方、仕事や家庭のことなど様々なことが話題となりました。先輩たちから当時の大学生活や町の様子を聞いたり、お互いの大学生活を話し合ったり、楽しかった都留の話題で盛りあがりました。卒業年度や学んだ科は異なりますが同窓生というつながりを実感し深め合うことができました。

今後、さらにつながり・深め合うことで「明るく元気・楽しい」高知県支部をめざしていきます。



# アンケート結果から～ 教員採用試験突破へ組織力と 叡知の結集を！

愛知県支部長 田中 敬教

母校都留文科大学が教員養成を存立基盤にして充実発展してきたことは、皆様ご承知の通りであります。今、教育界は団塊世代教員の大量退職とそれに見合う新卒教員大量採用時代に突入しつつあります。私の勤務する名古屋市でも県とは別立てで来年度新卒教員を550名採用する予定です。こうした状況を踏まえ、中京圏では教員養成課程を新設もしくは充実させる大学が次々に現れ、キャリア教育や教採対策教育の強化によって著しい成果を挙げつつあります。このままでは、母校の存立そのものが危機に瀕することになりかねません。そこで、全国33の支部長様宛にアンケートを実施させていただきました。20支部より回答がありましたので、その結果を3点に集約して以下に記しました。

1、「教員採用試験の支援の実際」については、20支部中13支部が行っており、内容は非常に濃密なものから情報提供まで様々である。教員採用人数が多い支部ほど濃密である傾向にある。支援を行っていない7支部についても、ほとんどの支部が行う用意があ

るとの応答であった。

2、「支部同士の連絡組織の必要性」については、14支部が必要という応答であり、6支部が不必要という応答であった。ただ、いずれの場合も同窓会本部なりキャリアサポートなりがその中核的役割を担い、情報の収集と発信の機能を強化していくことが前提であるという点では全く一致している。

3、「その他」については、キャリア教育なり教員採用試験対策については、学生の意識を高めることと併行して、大学当局が計画的・組織的にカリキュラムの中で実現していくことが本来の姿であるとの意見が圧倒的であった。

上記の内容につきましては、大学当局、キャリアサポート、同窓会本部にお伝えし、しかるべき対応をお願いする所存です。当面は理事会の折に情報交換の強化やキャリアサポートの情報収集・発信の強化に協力する形で支援の一步を踏み出したいと考えております。母校が抱える諸問題は一朝一夕には解決できませんが、全国に広がる同窓会の組織力と叡知の結果によって打開の糸口が発見できれば望外の喜びであります。

## 体育会

平成20年度体育会

会長 上原 歩

孟春の候、都留文科体育会会員の諸先輩方におかれましては、ますます御清栄のこととお慶び申し上げます。およそ五十年近い歴史を持つ体育会ではありますが、現在「伝統」や「文化」などの諸先輩方が作り上げてきた歴史を、軽んじることなく、その歴史をふまえた上で、自分達の色で体育会を盛り上げていこうという方針、「はじめ」という目標の下、日々、各部頑張っています。

今年は、関東甲信越大会において準硬式野球部が優勝、女子陸上部が準優勝と、優秀な成績を取っています。これは現役の選手のみだけでなく、陰で支えて下さっているOB、OGの先輩方のおかげです。

これからも、諸先輩方に良い報告が出来るように精進していきたく思います。ご指導、ご鞭撻のほど宜しくお願いします。



高崎経済大学との体育交流「鶴鷹祭」にて

## 文化会

平成20年度文化会

会長 斎藤 悠人

孟春の頃、都留文科大学同窓会会員の諸先輩方におかれましては、ますますのご健勝のこととお慶び申し上げます。

前年度文化会本部は無事任期を終了し、平成二十年度文化会へと引き継ぎを完了致しました。文化会所属の団体も引き継ぎをはじめ、新体制となってやる気に満ちあふれています。一年という短い任期ではありますが、これまで先輩方が作り上げてきた伝統を受け継ぎつつ、更なる文化会の発展を目指していきたいと考えています。旧い四字熟語に「温故知新」という言葉がありますが、歴史を知ることによって更なる文化会の発展を目標としていますので、誠に勝手ではございますが、先輩方の善き力添えを頂きたいと思っております。

文化会としましては、各団体の更なる交流や絆を深め、互いに刺激を受け合いながら、より良い文化活動を行っていきたく考えておりますので、今後ともご指導ご鞭撻の程、よろしく申し上げます。



オープンキャンパスで発表するマンドリンクラブとアカベラサークル

都留文科大学同窓会役員

役職名	氏名	卒科
名誉会長	金子 博	
会長	永田 清一	47国
副会長	桐井 幸雄	33初
	石原 誠治	45初
	小林 孝次	47英
	千野 文雄	49英
庶務会計	石井 正己	52初
	田中 克己	53初
	牛田 弘長	大学・課長補佐
事務局長	日向 哲男	52初
事務局次長	浜欠 亮吉	40国
監事	淡野香百合	40初
	相川 洋子	53英
理事	北海道支部長	横山 勲 41国
	岩手支部長	堀籠 智志 54国
	山形支部長	神尾 正俊 55国
	宮城支部長	鎌田 清 47初
	福島支部長	大竹 豊紀 39初
	茨城支部長	宮内 健治 52国
	埼玉支部長	渡邊 哲朗 40初
	千葉支部長	林 俊之 44初
	東京支部長	松本多加志 44初
	神奈川支部長	板倉 忠臣 31初
	山梨支部長	斉木 高明 32商
	静岡支部長	鶴見 親義 40国
	新潟支部長	池原 栄一 51初
	富山支部長	澤井 隆 48国
	石川支部長	矢田 史朗 44英
	福井支部長	伊藤 俊英 46国
	愛知支部長	鈴木 定夫 47初
	三重支部長	山本 征也 40初
	奈良支部長	瀧川 佳市 33初
	大阪支部長	木浦 憲一 47初
兵庫支部長	井上 弘和 41国	
広島支部長	松田 昌紀 39初	

役職名	氏名	卒科
理事	鳥取支部長	藤原 成雄 40初
	島根支部長	木村 晴男 44初
	岡山支部長	原田 直樹 45国
	愛媛支部長	谷川 忠孝 43初
	徳島支部長	小倉 健司 54英
	高知支部長	清岡 典代 41国
	長崎支部長	西田 正人 41初
	熊本支部長	倉岡 康夫 39国
	宮崎支部長	荒巻 孝行 36初
	鹿児島支部長	溝口 通大 40初
	沖縄支部長	金城 宏安 34初
	北海道	当銀 誠博 40初
	兵庫県	赤穂 栄一 41英
	顧問	高野 英夫 33初
		柏木 精一 58初
		林 学 54初
原 喜雄 54初		
和田 一次 46初		
市川 将満 45国		
一瀬 英治 47国		
若林 四郎 32商		
朝比奈一正 40初		
作地 眞 47国		
奥脇 隆樹 46初		
赤松金次郎 36商		
安富ひろ志 46英		
奥秋 順作 32初		
志村 武男 32商		
後藤 敬 34商		
小佐野正己 29教		
佐藤 唯一 33初		
佐藤 英雄 39国		
輿石 東 33初		
山縣 永良 40国		
勝俣 武男 42初		

住所変更届はホームページ・E-mail・郵便はがき・FAXで、お願いします

結婚・転居等により住所や氏名を変更された方は、次の必須項目及び変更内容をいずれかの方法によりお知らせ下さい。郵便はがきでの住所変更届の場合、ハガキは自己負担でお願いします。

1 ホームページ

- (1) 本学ホームページより[卒業生の方へ]→[同窓会]→[同窓会氏名・住所変更届け]にて行ってください。なお、詳しい変更方法については、ホームページ上に掲載してありますので、ご参照下さい。都留文科大学ホームページURL <http://www.tsuru.ac.jp>
- (2) ホームページ上にて氏名・住所変更届けを行う際には次のユーザーID並びにパスワードが必要となります。ユーザーID:tsurubun-u パスワード:t10016(どちら

も半角英数)※同窓会会員以外による不正使用がないよう、ユーザーID・パスワードの管理にはくれぐれもご注意下さい。

2 E-mailにて送信

E-mail/dousokai@tsuru.ac.jp

3 FAX・郵送

〒402-8555 山梨県都留市田原3-8-1 都留文科大学同窓会 宛  
TEL/0554-43-4341 内線206 FAX/0554-43-4347

◎必須項目	○変更内容
氏名(フリガナ)/旧姓 卒業年・学科	現住所/電話番号 勤務先名 勤務先住所/電話番号 勤務先役職

平成18年度都留文科大学同窓会会計収支決算書

(単位:円)

◆収入の部

項目	当初予算額	補正予算額	予算現額	収入済額	備 考
入 会 金	3,655,000	0	3,655,000	3,645,000	729人×5,000円=3,645,000円
終 身 会 費	7,310,000	0	7,310,000	7,290,000	729人×10,000円=7,290,000円
繰 越 金	1,931,514	0	1,931,514	1,931,514	
雑 入	3,000	0	3,000	29,336	名簿販売(4冊)・50年記念誌販売(4冊)・預金利息
収 入 合 計	12,899,514	0	12,899,514	12,895,850	

◆支出の部

項目	当初予算額	補正予算額	予算現額	支出済額	備 考
事 業 費	6,760,000	0	6,760,000	6,332,940	
会 報 発 行 費	2,700,000	0	2,700,000	2,537,397	第25号(平成18年度発行) 山梨 東京 神奈川 愛知 静岡 600,000円(@120,000円×5支部) 北海道 福島 兵庫 千葉 440,000円(@110,000円×4支部) 岩手 宮城 埼玉 新潟 900,000円(@100,000円×9支部) 富山 石川 福井 大阪 広島 山形 茨城 島根 岡山 愛媛 810,000円(@ 90,000円×9支部) 徳島 熊本 鹿児島 長崎 320,000円(@ 80,000円×4支部) 鳥取 宮崎 沖縄 奈良 70,000円(@ 70,000円×1支部) 高知
支 部 助 成 金	3,140,000	0	3,140,000	3,140,000	三重県支部設立準備金
支 部 設 立 準 備 金	300,000	0	300,000	150,000	
新 入 学 祝 費	500,000	0	500,000	451,783	
支 部 旗 作 成 費	120,000	0	120,000	53,760	三重県支部旗作成
会 議 費	1,300,000	0	1,300,000	1,147,605	
総 会 費	0	0	0	0	
理 事 会 費 等	1,300,000	0	1,300,000	1,147,605	
同 窓 会 本 部 費	1,770,000	0	1,770,000	1,203,018	
事 務 費	100,000	0	100,000	42,263	
運 営 費	1,450,000	0	1,450,000	998,055	
慶 弔 費	120,000	0	120,000	65,000	
渉 外 費	100,000	0	100,000	97,700	
積 立 金	3,000,000	0	3,000,000	3,000,000	大学創立記念事業基金積立
予 備 費	69,514	0	69,514	0	
計	12,899,514	0	12,899,514	11,683,563	

(収入済額) (支出済額) (収入・支出差引残高)  
¥12,895,850 - ¥11,683,563 = ¥1,212,287

◎基金の増減

◆平成17年度末積立現在高 20,599,085 円  
◆平成18年度中積立金(大学創立記念事業) 3,000,000 円  
計 23,599,085 円

基金内訳

財政調整基金 7,202,425 円  
大学創立記念事業基金 15,296,660 円  
名簿発行準備金 1,100,000 円  
計 23,599,085 円

◎開学50周年記念特別寄付金について

◆収入の部

項目	収入済額	備 考
平成17年度繰越金	65,145	
雑 入	24	普通利息
計	65,169	

◆支出の部

項目	支出済額	備 考
掛時計(大学に寄贈)	46,200	11,000円×4台
掛時計代金振込手数料	630	315円×2件
計	46,830	

(収入済額) (支出済額) (収入・支出差引残高)  
¥65,169 - ¥46,830 = ¥18,339

## 事務局だより

すでにご存じの同窓生の方も多いと思いますが、第11代学長に就任することになりました今谷 明氏の都留文科大学に対するお考えの一端を、紙面を通してお知らせします。また、本大学の楠元六男教授・新保祐司教授が栄えある賞を受賞されましたのでお知らせします。

### 新学長 今谷 明



全国の同窓生の皆様方に、新学長として一言御挨拶申し上げます。

私は、4年前まで横浜市立大学で18年間に及ぶ教員生活を送りましたが、その間、つねに敬意と羨望に堪えなかったことは、都留市という小さな地方自治体が、独自に大学を運営されており、しかも立派な実績を上げておられることでした。今回、はからずも金子博現学長の跡をうけて、第11代学長に就任することになり、身の引き締まる思いと光栄を感じております。歴代学長名簿を拝見しますと、「大漢和辞典」で有名な諸橋轅次先生や、歴史家・民俗学者として知られる和歌森太郎先生の名がみえ、果たして私如き菲才の身に学長職がつとまるのかと、不安と重圧も感じておることは確かでございます。

しかし、教授会の民主的な手続きにより選任された以上、精一杯頑張るよりない、と決意し、自分に言い聞かせております。どうか、同窓生の皆様方におかれましても、御支援と御鞭撻を切に願ひ上げる次第でございます。公立大学の運営につきましては私自身も横浜市で何年か経験している所ですが、大学によってそれぞれ事情があるようで、都留市には都留市なりの、都留文大には都留文大なりの事

情があるようでして、唯今、資料をとりよせ、また諸先生方、市役所の方の御意見を聴取しながら、勉強中であります。

御案内のように、今日、大学をとりまく環境は厳しいものがありまして、国立大学では法人化がほぼ一巡し、地方公立大学でも現在法人化の動きが進行中であります。本学もすでに設置者の都留市が法人化を決定しており、来年4月に実施に移される見込みとなっております。ややもすれば、法人化に懸念を抱く先生方もないではないのですが、法人化にはそれなりのメリットもあります。また都留文大が築き上げてきた素晴らしい実績と先生方の研究・教育条件などは決して低下させることがあってはならない、と肝に銘じております。金子前学長も、昨年の同窓会報で、本学に集まる学生達の質の高さを強調され、伝統を踏まえて方向を探れば「大きく過たずに進んで行ける」と述べられておりますが、この点は私も全く同感であります。

私の専門は日本中世史(室町時代)で、一般向けの著書も若干あり、講談社学術文庫などに収められている拙著をお読みいただければ幸甚です。前任地の仕事の関係で、一昨年オランダに行き参りましたが、ライデンの町に一泊して、同地の有名な大学を見学しました。「大学の町」としてよく知られており、都留文大と似たところがあります。この特色はシーボルトが在日中に集めた資料と日本学ですが、私達も、もう一頑張りして、「日本のライデン大学」と言われるように、何とか都留文大を改革して行きたい、そのための「捨て石」ともなれば、これに勝る喜びはありません。

### 「ともかくの歩み」 国文学科教授 楠元 六男

都留文科大学国文学科を卒業して立教大学大学院に進学したころ、将来に対する可能性をいかに自分で観察しえたのだろうか。思い返してみると、体感できたのははてしない不安ばかりであった筈である。それでもなお研究を志向し続けたのは、芭蕉ならばこそといえる。

伊賀出身の田舎俳人が不安定な境遇をものともせず新風に邁進していく姿は、生き方の指針となった。いわく、「無能無芸にしてこの一道に通ず」(『笈の小文』)と。いきおい俳諧研究は一生の仕事にならざ

るをえなかった。

六十に至るまで、芭蕉を中心とする俳壇動向はひと時も頭を離れることはなかった。そして『芭蕉、その後』(竹林舎)の刊行になる。この一冊により、平成十九年度の芭蕉祭「文部科学大臣賞」と角川源義賞を受賞した。牛のような歩みでも、継続すれば何がしかの場所に到達するものらしい。自分の幸運に感謝しつつ、謹んで報告するものである。

### 「正論新風賞」を受賞して 国文学科教授 新保 祐司

「正論大賞」と「正論新風賞」は、いわばセットになっていますので、どのような賞であるかを合わせて説明します。

「正論大賞」は、フジサンケイグループ(産経新聞、フジテレビジョン、ニッポン放送を中核とする)によって昭和60年に制定され、グループの基本理念「自由と民主主義のために闘う正論路線」を発展させた個人並びに団体に贈られる年間賞です。

「正論新風賞」は、平成12年に制定され21世紀の日本を担う新進気鋭、あるいは躍進著しい言論人を見出し、顕彰するために設けられた年間賞です。

このたび、私は、平成19年の年末に、第8回「正論新風賞」を受賞しました。とても光栄なことだと思っています。ちなみに、「正論大賞」は、京都大学教授の佐伯啓思氏が受賞されました。それと

今回は、特別賞が、作詞家・作家の故阿久悠氏に贈られることになりました。

私の著作としては、『国のさゝやき』と『鈴二つ』という、クラシック音楽を題材とした時代批評の文集と『信時潔』という、『海ゆかば』の作曲家を復権させたものが、評価されたのだと思います。

今回の受賞を励みとして、批評活動は鋭意続けていく所存ですが、国文学科の教員としては、講義、演習を通して「批評」というものの大事さ、面白さを教えていきたいと考えています。



秋景

### ●裏方さん

同窓会事務局には平成19年度から大学事務局総務課長補佐の牛田弘長様が通常の業務以外にお手伝いいただいています。また、事務員さんは飯野美華さんが専属で事務全般の仕事をしていただいております。